

# 高石市教育委員会定例会会議録

(令和4年10月定例会)

## 開会及び閉会の年月日時

開 会	令和4年10月12日 午後3時00分
閉 会	令和4年10月12日 午後3時40分

## 会議に出席した者の職及び氏名

委 員	教 育 長 : 木 寄 茂 巳 委 員 : 西 中 隆 委 員 : 佐 野 慶 子 委 員 : 西 村 陽 子 委 員 : 吉 村 文 一
事務局職員	教 育 部 長 : 村 田 佳 一 教育部次長兼 社会教育課長兼公民館長 : 佐 藤 信 雄 教育部次長兼 学 校 教 育 課 長 : 松 田 訓 一 教育部こども未来室長 : 家 村 美 雪 教 育 総 務 課 長 : 綾 井 康 浩 学 校 教 育 課 参 事 : 山 崎 陽 子 学 校 教 育 課 長 代 理 : 杉 原 敦 史 教育研究センター所長 : 阪 口 敏 基 こ ども 家 庭 課 長 : 吉 村 あかね 子 育 て 支 援 課 長 : 阪 上 徹 教 育 総 務 課 : 中 阪 三 明

## 議題及び議事の要旨及び議決事項

### ・ 議案第1号 高石市教育委員会表彰について

教育総務課長	議案第1号、高石市教育委員会表彰について、教育総務課より説明します。 本議案は、高石市教育委員会表彰規則第3条第3号及び第4条第3号の規定に基づき、さきで開催されました教育委員会表彰審査会において承認された2ページ及び3ページ記載の候補者を表彰するものです。
採決	可決

### ・ 議案第2号 令和4年度全国学力・学習状況調査結果公表について

次長兼 学校教育課長	議案第2号、令和4年度全国学力・学習状況調査結果公表について、説明します。 本議案は、今年4月に実施しました全国学力・学習状況調査についての本市小・中学校の調査結果の公表についてご承認いただくものです。
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>学力調査の結果概要としましては、本市小・中学校における各教科の学力に関する分析の部分と質問紙調査の結果概要として質問紙調査の分析からの学習状況に関する部分、その両方の分析から見えてきた課題とそれに対する高石市教育委員会及び各学校の取組等について公表させていただくものです。</p> <p>学力調査は、小学校6年生が国語、算数、理科、中学校3年生は、国語、数学、理科が実施されました。</p> <p>平成31年度からは、これまで主として知識に関する問題であるA問題と主として活用に関する問題であるB問題に分かれていたものが統一され、今年度についても継続してA、Bと分かれていない問題となっています。</p> <p>問題内容の傾向としては、ほぼ以前のA、Bに分かれていた分のB問題に近い内容となっています。</p> <p>質問紙調査は、小学校6年生と中学校3年生の児童生徒の学習意欲、学習方法、学習環境等に関する内容についての質問がされました。なお、今年度は、令和3年度にありましたコロナ禍に関する質問は、なくなっています。</p> <p>結果概要については、課長代理の杉原より説明します。</p>
<p>学校教育課長代理</p>	<p>それでは、令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について説明します。</p> <p>最初に、別冊の1ページの学力調査の結果概要をご覧ください。</p> <p>今年度は、小学校が国語、算数、理科、中学校は、国語、数学、理科の調査を行いました。中段やや下の平均正答率から分かる本市の小、中学校別結果の概要についてご覧ください。</p> <p>小学校、中学校ともに、全ての調査で大阪府、全国平均を下回る結果になっています。</p> <p>次に、校種、教科ごとにもう少し詳しく説明します。</p> <p>2ページ目をご覧ください。</p> <p>小学校国語については、平均正答率が全国より3.6ポイント下回っており、領域では特に書くこと、読むことに課題が見られました。対全国比の経年比較では下降傾向が見られ、令和4年度の結果は、94.5%で一昨年度と比較すると4.6ポイント程度の下降が見られました。</p> <p>算数については、平均正答率が全国を2.2ポイント下回っており、領域では、特に図形に課題が見られました。対全国比の経年比較は下降傾向が見られ、令和4年度の結果は、96.5%で昨年度と比較して4.5ポイント程度下降しています。</p> <p>理科については、平均正答率が全国を6.3ポイント下回っており、領域では、特に粒子を柱とする領域に課題が見られました。対全国比の経年比較は下降傾向が見られ、令和4年度の結果は、90.0%で前回実施された平成31年度と比較すると7.8ポイント程度下降しています。</p> <p>次に、3ページは、中学校の学力調査の結果を示しています。</p> <p>国語については、平均正答率が全国より5.0%下回っており、領域では、小学校と同様、読むことに課題が見られます。対全国比の経年比較は平成27年度より下降傾向となっていました。令和4年度の結果は、92.8%で一昨年度より少し上回る結果となっています。</p> <p>数学については、平均正答率が全国より4.4%下回っており、領域では、データの活用の領域に改善が見られましたが、図形領域については引き続き課題が見られました。令和4年度の結果は、91.4%で昨</p>

年度の結果より 4.4 ポイント下回る結果となっています。

理科については、平均正答率が全国より 6.3% 下回っており、領域では、特にエネルギーを柱とする領域について課題が見られました。令和 4 年度の結果は、87.2% で前回の結果より 2.1 ポイント下回る結果となっています。

次に、4 ページの質問紙調査の結果概要について説明します。

今年度の調査でも教科に関する調査と同様に学校生活や授業、生活習慣などに関する質問紙調査が実施されました。このページでは、高石市の子どもたちの学習状況、生活習慣の特徴や課題が見えるところを抜き出し、まとめております。

②番「自分にはよいところがある」と④番「人の役に立つ人間になりたいと思う」において、中学校の数値が伸びています。また、小・中学校ともに③番の「将来の夢や目標をもっている」と⑨番「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の数値が伸びています。⑤番の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」は、小・中学校ともに 96% を超えて、全国とほぼ同等になってきています。引き続き、いじめは絶対許されないという意識を向上する取組みを進めてまいります。

しかし、⑦番の「家庭学習の時間が 30 分以下」、⑧番の「自分で計画を立てて勉強している」が減少し、引き続き家庭との連携を図りながら、啓発を行う必要があります。

次に、5 ページの調査結果からをご覧ください。

こちらは、教科に関する調査、質問紙調査の全体を分析してまとめ、考察したものです。

学力面に対しては、主に「文書に表れているものの見方や考え方を捉え（読み取る力）、自分の考えをもち、表現する力（書く力）」に、生活面では、「家庭学習の時間」「読書をする時間」が短いという課題が見られました。「普段、ICT 機器を勉強のために使う」について、1 日 2 時間以上と回答した人の割合が小・中学校ともに全国平均を上回っています。しかし、「テレビゲーム等をする時間」「SNS や動画を視聴する時間」について、1 日 2 時間以上と回答した割合についても小・中学校ともに全国平均を上回る結果となりました。家庭学習、情報モラル教育の課題について、家庭との連携を進めていきたいと思っています。

次に、6 ページは、教育委員会による学校への指導助言事項を記載しています。これをもとに指導主事が重点的に各学校へ指導助言に行きたいと思っています。

次に、7 ページ、8 ページには、今回の調査結果を受けて、各小中学校が自校の結果を分析し、5 ページの「調査結果から」にまとめた課題、「学力向上の取組み」をもとに、学校が重点的に取り組むことについて記載しています。

次に、9 ページには、「家庭・地域にご協力いただきたいこと」です。質問紙調査の結果より、家庭での時間の使い方に課題があることから、家庭における家庭学習の充実、スマートフォン等の使い方の改善、読書機会の設定を図るため、各家庭への啓発内容、ご協力いただきたいことを記載しています。

次に、10 ページには、家庭学習を行うヒントとなるポイント等についてまとめたリーフレット「家庭での過ごし方について」、大阪府教育委員会から配信されている家庭学習教材の掲載となっています。

また、児童生徒に 1 人 1 台に配付されたタブレット端末に入ってい

	<p>るAIドリルの紹介もしています。</p> <p>11ページには、教育委員会から配付しております「家庭でのタブレット端末の使い方」「ケータイ・スマートフォンの使い方」のリーフレットを掲載し、紹介しています。</p> <p>12ページ以降は、本市の学力調査の結果から、特に課題と思われる問題を抽出して掲載しています。</p> <p>今後も学力向上に関する方策だけでなく、子どもたちの生きる力の育成をめざして、各家庭にもご協力いただきながら、教育委員会としても取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>以上、令和4年度全国学力・学習調査の結果概要についての説明を終わります。</p>
西中委員	<p>幾つかお尋ねします。</p> <p>まず、令和3年度の学力調査は、令和2年度に比べて、小中とも折れ線グラフは全部上向きということで、非常によく、府を上回るものもあったので喜んだわけですが、今年度は、昨年度に比べて学力が少し下降気味ですが、何か全体的な原因があるのですか。</p> <p>それから、昨年度、教育委員会のいろいろな指示事項等も拝見して、それを受けて現場でやっていただいて令和4年度の学力になったわけなんですけれども、特に昨年度に比べて改善を図られたものがあるのかどうか、令和4年度、こういうところがよかったというのがあれば、少しお聞かせいただけますか。</p> <p>それから、この学力テストを最初から回答しないという子どもというのは一番よくないわけなんですけれども、その無回答率が今回も出ています。以前にも少し指摘したことがあります。無回答率が上がっているのか、下がっているのか、お聞かせいただけたらと思います。</p> <p>それから、家庭環境との関係は、学力・学習調査が全国的に発表されたら必ず出ますが、学校だけでは解決できないということがあり、今回、令和4年度の成績を受けて、早速調査して、家庭環境の違いによる学力を分析し、相関を出している面白い結果をスマホで拝見しました。非常に相関が高いということがはっきり出ていて、高石市でも家庭への働きかけというんですか、何か特にやっていますか。</p> <p>最後に、非常に課題を明らかにして、その対策書いていただくのを拝見して、非常によく分かるわけなんですけれども、この新しい試みとして、令和4年度10月からの「よむYOMUワークシート」の詳細を説明して下さい。</p>
次長兼 学校教育課長	<p>幾つかご質問いただきましたので、学校教育課から出席している者で、分けてそれぞれ回答させていただきます。</p> <p>まず、私のほうからは、一番初めにご質問いただきました昨年度に比べ、今年度が下降した原因というところ、また、それと、家庭環境で非正規のご家庭と正規のご家庭ということについて、説明します。</p> <p>今年度、グラフを見ていただいても分かるとおり、全体的に昨年度よりは若干下降気味のところが多くなっています。大前提として、高石市の取組は、手綱を緩めているというのはありません。各学校においては、それぞれ学力の向上に向けて取組を進めています。それは、我々市教委としても、毎学期1回以上に学校訪問しまして、現状の確認とか、進捗の確認表などを紙媒体で提出していただき、確認しておりますので、学校での取組が後退しているわけではないと考えています。ただ、もちろん、右肩上がりといえますか、当該年度の状況のみを見ていただけたら理想かなと思います。多少のジグザグというのは</p>

	<p>出てくるということは、教員についても、また子どもたちについても違う子どもたちであるということ。全国とか大阪についても、様々なその年、その年のことがありますので、結果としてジグザグになってくるかなと思っています。</p> <p>全体的な原因ということでは、これが間違いの原因ですという特定することができませんけれども、やはり、違う教職員集団で教えている、そういった場合もございますので、とにかく教職員の指導力の均質化を図りつつ高めていきたいと考えています。</p> <p>また、後半でご質問いただきました家庭環境と学力の相関関係については、私も幾つかの媒体で拝見させていただきました。本市について、まず、この家庭環境での違いがあるのかというところの調査までは把握はしていません。ただ、なかなか家庭教育が難しいご家庭のお子様に対しては、放課後の指導であったりとか、タブレット端末を活用した指導であったりとか、そういった家庭に対応するすべというのは取って対応しています。</p> <p>昨年からの改善点の無回答の部分について、課長代理のほうから説明させていただきます。</p>
<p>学校教育課長代理</p>	<p>まず、改善点については、中学校の数学でもありましたようにデータの活用について、小学校でも昨年度よりも良い結果にはなっています。今回の結果の中には表れていませんが、書くことについて、昨年度は力を入れて教育委員会の取組みをしていました。現場に授業を見に行かせていただいたりすると、子どもたちが書くことに抵抗感が減っている様子や、自分の考えを伝えるというところで、しっかりと書いたことをもとに話し合いをしている授業をたくさん見ることができました。質問紙調査の回答の中にも、4ページの⑨番「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」において、まず、自分の考えを書いてから友だちと共有するということは、成果として出てきてはいます。しかし、読み取りのほうに課題があると思いますので、新しい取組みも教育委員会として進めていきます。</p> <p>また、無回答率が減っているのは、そういった指導の中で、しっかりと最後まで考え抜いていく力であったり、自分の考えを何とか伝えようとしたりすることに、日々の授業改善していますので、そういったところで改善が見られたと思っています。</p>
<p>学校教育課参事</p>	<p>先ほど、最後の質問の「よむYOMUワークシート」の活用について、説明します。</p> <p>活用の前に、ここ数年、本市の学力課題として、この2・3年では、読解力に課題があり、その手だてを講じていくことが求められていました。</p> <p>今回、この「よむYOMUワークシート」を導入した経緯は、読売新聞社からのご提案もあり、新聞記事を使って、2問程度で、5分程度で解けるワークシートを今回10月の中旬から半年かけてやっています。</p> <p>先ほど課長代理からも説明ありましたとおりに、本市の読解力という課題に正対し、資料を使って読み取りをするというところについても課題でもありましたので、その「よむYOMUワークシート」の資料、グラフといった様々なものを読み解いて5問程度の問題を解くということで問題が作られています。小学校4年生から中学校3年生まででやっていくことで学校のほうには説明をしています。配信型になっていますので、読売新聞社から学校のほうに問題を送っていただい</p>

	<p>て、週に1回、例えば朝の学習の時間であったり、授業中であったり、時間がなかったら宿題として出して子どもたちにやらせていくことで取組みを進めていきたいと思っています。</p> <p>ただ、学校教育課としては、やりっ放しということではいけないので、解説のほうに十分に時間を取っていただくよう指示をしています。まだ始まってはいませんが、今後、市教委として分析をし、学校のほうにも情報提供を行いながら、連携を進めていきたいと思っています。</p>
西中委員	<p>よく分かりました。先ほど、次長が言われた教員の授業力向上ということですね。特に、コロナ前に教育委員がタブレットを使った授業を拝見して、非常にいい授業をやっているなと思いました。ただ、授業力の向上が必要な先生方もいるんじゃないかと思います。授業力の向上ということで、何か、特に今年はこのことをやっていたらいいかな、ということがあれば、付け加えて教えてください。</p>
次長兼 学校教育課長	<p>授業力に関しては、今、西中委員からご指摘のとおり、やはり若い世代の先生が増えているということで、授業力を向上させるための時間がまだまだ足りていない者というのは、現実問題としては当然입니다。ただ、今お話の出たタブレット端末とかの活用については、これは若干若い世代にも利があるというか、有利な点とかもありますので、そのあたりについては、授業を見に行きますと、しっかりと活用していただいていると思っています。</p> <p>今後、今回の結果も受けて、授業力の向上で、今年の特にといいところですけども、まさにコロナ禍から徐々に脱しようとしているこのなかで、特に、授業を他の学校等に公開する動きが各学校でいろいろ出ています。当然、府の事業等を受けて公開をするという場合もありますが、そういったものもなく、単純に、うちは公開したいから、市として指定校にしてくれとか、そういった校長先生もいらっしゃいますので、高石市の教育委員会で一応指定という形を取り、学校公開、授業公開してくれる学校等も出ています。</p> <p>また、そこまで至らなかったとしても、とにかくよりいいものを見てこそその授業力の向上になると考えていますので、そういったものに積極的に出かけて、様々なものを吸収して、授業力向上するように、そういった施策のほうを各学校にも指示しています。</p>
西中委員	<p>それから、「よむYOMUワークシート」をやった成果ですね。こういうことを全市の学校でやられたその成果というのは、どういうふうに評価されるのですか。</p>
次長兼 学校教育課長	<p>こちらのほうについては、先ほども参事のほうから話がありましたように、読売新聞社と効果検証についてもどのような方法でやっていくのかを考えています。まず、教職員にアンケートを取る形で考えています。</p> <p>また、やはり先ほどありましたように解説のほうに力を置くということで、子どもたちが何点取れたかということとはなかなかふさわしくないかなと考えています。ただ、教育委員会としても、読売新聞社さんが本市にだけ提供しているものではなく、全国的に、様々な地域、様々な学校に提供しているものですので、そういった資料のほうを捉まえて検証していくこととなっています。</p> <p>なおかつ、こちらの効果検証については、本市の中で、また点検評価等の中で、また何らかの記述等ができて、何かこう皆さんに見ていただくところがあればいいなというふうに現状考えています。ただ、この5月から初めて実施する事業ですので、何分、こういったことが</p>

	ふさわしいかというのも併せて、今のご意見を共有して検討していきたいと考えています。
西中委員	また、ある時点で、この成果をまとめて報告いただいたらありがたいと思います。 それからもう一つ、我々がこのシート、また拝見できるんですね。
学校教育課参事	問題例というのがありますので、後ほど拝見していただけるよう準備します。
吉村委員	先ほど、話をする、聞く、話し合いで友達と理解を深めるとか、そういうところを非常に力を入れていただいているというお話がありました。それがこの質問紙調査結果概要のページ⑫番の「国語の授業で学習したら将来社会出るとき役立つと思いますか」が割と高いのがこの辺に出ているんですけれども、これと、学校外での読書時間というのがつながってきていないと思います。これはやっぱりどうにかすべきなので、高石市は幼児期からブックスタート事業をやっている、読むことに力を入れているけれども、これにつながっていないところをどうにかすべきだと思います。学校図書館とアプラの図書館と相互貸し借りもできるようなにはなっていますけれども、その辺は最近どうなんですか。学校図書館とアプラ図書館の連携は、活発にできているんでしょうか。
次長兼 学校教育課長	数年前から、小・中学校の図書館司書のほうが2校に1校という人員配置ではありますが、つけていただいています。 また、その中のリーダーの方には、アプラの図書館のほうに週に1度行っていただいて、そこで、その方がほかの4名からの相談を受けていただくような形も取って、どんどんと図書館との情報交換、また、学校への多数に上る貸出しであったりとかも実施していますので、連携に関しては、今も取れていると考えています。
吉村委員	そこで、司書さん回ってきたときに、それぞれの学校のエントランスにいろんなもの展示するスペースがありますね。興味を引くようなものがないとあまり読みたくなれないと思いますので、そういうところを使って、司書さんに学年別のお勧め図書とかを定期的に、何か興味を引くようなディスプレイをしていただいたらいいと思います。
次長兼 学校教育課長	そういうアイデアについても、校長会等を通して伝えます。 また、校内での読む時間だけではなくて、やはり家に帰った後でも読める、非常にたくさん書物に触れるような、そういった取組みも今後とも推進していきたいと考えています。
採決	可決

### ・報告第1号 教育委員会の後援等に関する報告について

教育総務課長	本報告は、高石市教育委員会の後援等に関する規程第2条第1項の規定に基づき処理したものについて、同条第2項の規定により、6ページ記載の学校教育課2件、社会教育課9件、こども家庭課1件の計12件の報告をするものです。
木寄教育長	報告があったものとして処理します。

### ・報告第2号 教育委員会関係諸行事等の報告について

各所属長	令和4年9月7日から令和4年10月11日までの当委員会関係諸行事について説明。
木寄教育長	報告があったものとして処理します。